

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づきグループホームの理念が作られている。職員が内容の把握を行い、毎日の目標をたてている。朝礼にて申し送りを行い、理念に基づいた実践につなげている。	法人の理念があり、それを基にしたホーム独自の四つの理念がある。その4番目には「地域の皆様もいつでも気軽に立ち寄っていただける場所づくりにつとめます」とあり、地域密着型サービスの社会的な役割も謳われている。来訪者に分かり易いように法人及びホームの理念が玄関に掲げられている。理念に沿ってホームの週ごとの目標を立て、更にそれを具体化した毎日の目標を立て、ふり返り、成果を日誌に記入している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かける園児、近所の方との声掛け、園児との交流、小学生との交流、地域のお祭りへの参加、地域ボランティアとの交流、また地区費納入にて、地域の一員として生活している。	地区の民生委員や近所の方に「お茶を一杯どうぞ」と声がけをしており、正月明け、豊作と商売繁盛を願う繭玉作りにも来訪していただいた。昨年、地区の高齢者の方々の勉強会を兼ねてホームの見学にもきていただいている。近くの小学校の四年生30名がホームを訪れ、ことわざカルタなどで交流している。傾聴や舞踊、草取りのボランティアも来訪している。毎年、信州大学の医学生の実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れ。学生の実習の受け入れ、施設の見学、施設内見学はいつでも気軽に立ち寄っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて施設の考え方、取り組みを報告し意見を頂き運営に役立てている。推進委員の皆さんが協力的で地域との交流もますます強くなっている。	2ヶ月に1回、偶数月の第4金曜日の13:00から実施している。家族代表や民生委員、区長、村担当部署職員などが参加し、ホームの利用状況や活動状況、翌月以降の予定などについて話し合い、貴重な意見や情報を頂いている。頂いた意見等はホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困ったことがあると行政の担当者に相談し親切な指導を頂いている。行政の意向も組んで運営ができています。	村の主催する食事を兼ねた介護事業所の交流会に参加し情報交換をしている。また、介護認定の更新に職員がホームを訪れ、家族から依頼を受けた入居者の現況を伝えている。介護報酬の改定等についても役場や村社協に相談をかける。広域連合から派遣される介護相談員を受け入れたことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束をしない。しなければならぬ時はその妥当性と解除も含め検討している。高齢者の尊厳を大切にケアについて勉強している。	玄関の施錠はされていない。法人の中に6つの委員会があり、その中の接遇教育委員会を主に勉強会が開かれ身体拘束をしないケアについて毎年意識づけを図っている。	

医療法人ゆりかご認知症対応型共同生活介護グループホームゆりかご南箕輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で、虐待が見過ごされないよう注意し防止に努めている。職員の言葉による虐待にもならないように注意している。一日の業務の中で何か見つけた時は検討している。毎日傷のカンファしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書、重要事項説明書、運営規定等、家族と一緒に確認し、質問を受けながら説明をし理解、納得して頂いている。医療連携体制、リスクについて詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成、変更の時、又年2~3回本人、家族と面談を行っている。本人、家族、スタッフとの家族会も年2回行い気持ち、希望を聞いている。	近くの家族の方はほぼ毎週1回、遠方に在住されている方は年2回の家族会に合わせて来訪している。家族会は春とクリスマス時に実施しており、いただいた意見や要望について話し合い対応策を検討している。他に、ケアプランの変更時に内容の説明を兼ね個別に家族と職員との懇談会を開き、意思疎通を図っている。苦情等については第三者委員にも申し出ができることを家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、全体会議、ミーティング等で意見を出せる機会を設けている。又法人の委員会に職員が分担して出席し、各施設での勉強会に於いて反映させている。	全体会議が毎月1回開かれており、その時点での課題や改善点が議題としてとり上げられている。変わったことや緊急度が高い場合には、朝礼だけでなく、随時ミーティングで検討することができる。年二回法人役職者と職員との面接が行われ提言等もできるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	掲示された事項については整備をしている。これで良いという状態はないので、さらに努力していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週月~金の昼食後の研修、法人全体、各施設の課題等に関して研修をおこなっている。又、働きながらヘルパーの資格も取れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まず、代表者、管理者、中間管理職が取り組みできるような機会を持つようにしている。		

医療法人ゆりかご認知症対応型共同生活介護グループホームゆりかご南箕輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず事前訪問をさせていただき本人、家族の願い要望に耳を傾け関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家庭訪問、及び家族面談をさせて頂く。面談には家族・医師・相談員・ケアマネ等が関り家族の要望、困っている事、不安を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった際、面談の中に医師・各専門スタッフが入り、本人や家族と相談をし、ホームの見学を含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内清掃・食事の準備・食事の盛り付け・食事の後かたづけ・庭園の草取り等職員と一緒にしている。職員は、ユニホームでなく私服にて、家族の一員であることに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・懇談会・訪問して頂いた時に、家族の希望、思いに沿えるよう努めている。時には、自宅に外泊したり、家族と一緒に外出の機会を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親類、教え子の方々が気軽に来訪して頂けるよう手配している。家族との話し合いの機会を年4回行って本人のしたいこと、家族の関りの希望を聞いている。、	担任をした教え子やクラブで指導したかつての生徒たちの来訪を受ける入居者がいる。2~3ヶ月に1回、入居者にも馴染みの地元の理美容院の方の訪問理美容があり丁寧に対応してくれている。以前は馴染みの美容院に家族と出掛けていた方も車椅子使用となりこの訪問理美容を利用されている。家族の協力を得ながら自宅へ帰ったり、知人や友人に会いに出掛ける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の運動や体操、大勢が参加できるゲームを導入し、利用者同士が関りあい、支えあえるよう努めている。		

医療法人ゆりかご認知症対応型共同生活介護グループホームゆりかご南箕輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話で近況を聞いたり、ホームに来所して頂き、相談・気分転換等の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居されている一人一人の思いや、暮らしに関心を持つようにする。本人に希望を聞いたり、家族に生活歴も含め時々聞き取りをしている。	大部分の方が自分の意思を表出でき、職員とのコミュニケーションを取ることができる。言葉での意思表示が難しい方についてもその方独自の仕草さや表情でわかるようになってきている。居室でのつぶやきや入居者の傍に座り声がけすることから思いを把握することもある。「歩きたい」、「散歩したい」という要望をケアプランに入れ、それに応えることでリハビリにもつながり、「そうね」、「やだね」と意思表示が明確になった入居者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会に来られた家族、親類の方々、担当されていたケアマネ、本人から話を聞き、これまでの暮らしやサービス利用の経過等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表や、ケース記録にて心身の健康状態を把握し、役割、一日の過ごし方の把握をし、職員全体に情報が共有できるように記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、医師、看護師を含め連携の中で、家族、本人の意向を聞きケアプラン作成、定期的見直しを3ヶ月に1回実施している。毎日のカンファ実施の中で状況が変化し、必要あるときはその日にカンファを行い実践し、1週間様子観察しカンファを開き検討している。	法人の関係者や管理者、計画作成担当者、職員で3ヶ月に1回の見直しを行い、本人や家族に説明がされている。計画作成担当者が少なくとも月1回は夜勤に入り、自分の目で入居者の状況を確認している。個別のプランについては残存機能を維持・向上していくためのリハビリに重点が置かれ、生活リハビリ、転倒予防体操や気功体操などが組み込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の記録をケース記録に記入し、業務報告書を作成し、申し送りの中で情報を共有している。ADLの状況や他に変化があった場合は、直ちに会議を開き、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出、外泊の依頼があっても即対応している。家族への協力を仰ぎ医療、リハビリとの連携を生かし医療面への支援も行っている。家族対応できない場合医療面での補助もしている。		

医療法人ゆりかご認知症対応型共同生活介護グループホームゆりかご南箕輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で行われているお祭り、催しものに参加。理・美容師さんの定期的な訪問傾聴ボランティア・芸能ボランティア・小学生・園児等の訪問。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に主治医を伺っている。特に指定がない場合、こちらの医師を主治医に定め、週1回の往診や緊急時の受診に対応している。家族希望ある病院は家族対応にて受診している。受診記録もあり。歯科については希望あれば行っている。	基本的には入居前からのかかりつけ医を継続している。運営する医療法人のクリニックが協力医となっていることからそちらに変更する方もいる。緊急の場合や家族が都合のつかない時には協力医と相談し、職員が付き添うこともある。法人の訪問看護ステーションとも連絡を取り相談もかけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で何かあった時、気づきを看護師に常時連絡し、医師の指示のもと適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師より、地域の病院の連携室と情報の交換を行い、相談し合い病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、PT等積極的に関ってもらっている。本人の希望状態をすぐ家族と話し合い経過も報告している。看取りケアも行った。家族は満足しているとのことであった。	直接の看取りはないが、ホームでの看取りに同意され直前1週間前に入院されて最期を迎えられた方がいた。訪問看護を利用し点滴を受けながらのケアであったが、家族、医師、職員の三者で検討しながら対応した。他の入居者への影響は殆どなかったという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルの勉強会を行い、職員に認識して頂き、急変や事故発生時即座に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策委員会あり。年内計画、毎月の計画があり実行、評価している。地震対策に力を入れ始めている。地域の中での震災訓練にも積極的に参加する。震災に促した必要物品も準備している。	年2回防災訓練を実施しており、うち1回は消防署の指導を受けている。地区の防災の日にも職員が参加している。毎月2回緊急連絡網を使った訓練も行って実際にホームへ駆けつけるまでの内容で実施することもある。スプリンクラー、自動火災報知器等も整備されており、広域の消防署の査察も定期的に受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の今までの暮らし方の理解と尊厳を大切に言葉遣い、気遣い、心使いを大切にするように努めている。	入居者への呼びかけは「〇〇様」で統一しており、それにより自然に丁寧で年長者を敬う言葉遣いになっている。入居者の尊厳やプライバシー確保についての勉強会も接遇教育委員会を中心に行なわれている。トイレ介助も含めたサービス提供時のプライバシー確保については特に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で発した言葉、会話の中での感じ得た希望を、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	友達と話をしたい時、自然に机、ソファに集まって仲間同士輪ができています。部屋でゆっくり休まれたり読書したり、それぞれのペースにより、自由に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域の理・美容師さんに訪問して頂き散髪・パーマ・毛染めをして頂いている。入浴時職員の声掛けにて、一緒に着替えの洋服を選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好調査の聞き取り、食事栄養チームによる毎食のメニューの質、量、味の見直しを行っている。食事の準備、盛り付け、後片付けを職員と一緒にやっている。	殆どの方が自力で食べることができる。食材によってミキサーをかけたり水分にトロミをつける方が若干名いる。家族会の時に家族と職員が一緒におやつづくりをしたり、行事に合わせて特別メニューも立てられている。プランターでトマトや青ジソ、ミツバ、パセリなどを作る入居者もいて、取れたてで新鮮な野菜が食卓に彩りをそえている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入浴後の水分摂取。毎食時、10時、15時、起床時、就寝前と1日7回の水分摂取を確保している。一人一人の状態に応じて、医師、調理師と相談して栄養のバランスを考えてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。歯科医による口腔チェック、口腔ケアも実施している。毎食後の歯磨き、義歯、歯冠ブラシの洗浄を促し清潔保持に努めている。		

医療法人ゆりかご認知症対応型共同生活介護グループホームゆりかご南箕輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄係を中心にパット・リハビリパンツ等の検討も行っている。一人一人の排泄パターンを職員が理解し、声掛け、誘導にてトイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。	昼間はリハビリパンツとパットを使用している方もいるがトイレでの排泄に重点を置いている。尿意を表せない方も若干名いるが時間帯でトイレへとお連れしている。夜間だけオムツ使用の方が若干名いる。トイレは車イス対応で立位タイプも設置されており、手すりも赤で識別しやすくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて10時のおやつは牛乳、食事メニューの工夫も行っている。毎日運動したり、時には医師に相談し予防と対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はその人の希望や体調に合わせて行っている。入浴の仕方については、ADL、能力により家庭浴と機械浴対応希望があればいつでも入浴できる。	一般浴と機械浴があり、機械浴の方が若干名いる。入浴は週3回以上で午前中の時間帯が多い。洗身で一部介助を必要とする方がいるが、職員が浴室に一名、着脱に一名ついて万が一に備えている。仲の良い入居者が二人で入る場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを大切に又尊重しつつ、その日その時の状況に応じ、落ち着いた生活ができる環境の設定を行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より届いた薬は一人一人の名前を記入したケースの中に入れ保管されている。薬の説明書はファイルしている。日常の状況を医師に報告し服薬の支援、病状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族から希望を聞き、日常生活の中で取り入れて役割が持てるようにしている。毎月レクリエーションの計画を立て、気分転換と楽しみごとの場の提供をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮し、車いすの方でも安心して戸外に出られるよう、庭園での活動に力を入れている。家族の協力による外出、地域の皆さんの協力を受けお祭り、催しに参加している。	天気の良い日には200mほどあるホーム周辺を散歩したり、玄関横の庭園のテーブルでお茶を飲んだりして気分転換を図っている。ホームの車に分乗し、花見や紅葉狩り、近くの大芝高原で行なわれる大芝まつりなどに出掛けている。近く道の駅にあるレストランへ外出に出向くこともある。	

医療法人ゆりかご認知症対応型共同生活介護グループホームゆりかご南箕輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常は所持金は持っていない。 必要時に於いては家族より頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファ、テレビが置かれ、壁には絵画、植物が飾られ、明るくゆったりとくつろげる空間が作られている。 トイレは立位タイプと様式トイレが設置され、手すりは赤色を使用し暮らし安い工夫をしている。	厨房を挟んで左右に居間があり、2ユニットの入居者がくつろいでいる。このスペースが時にはレストラン風の食堂に、時には歌謡体操の場にとフレキシブルに使われている。内装も明るく床暖とエアコンで適温に保たれている。両ユニットをつなぐ廊下も広く、長さも50mあり、歩行訓練や雨天時の散歩がわりの場所として利用されている。また、壁には伊那地方の四季を写した写真パネルが所々に掲げられ入居者の気持ちを和ませている。トイレも1ユニットに3ヶ所あり広く、風呂場もゆったりとしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、テレビ、椅子、冬には炬燵が置かれ、気の合った利用者同士がくつろいで頂けるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には絵画が壁に飾られ、入口ドアには自分の名前があり、自分の部屋であるという工夫をしている。それぞれ家族より、馴染みの物を持ってきて頂き部屋に置かれ思い思いの部屋が作られている。	居室のドアは吊り戸形式でなおかつ折り戸となっており、入居者を連想させる馴染みの写真やイラストが名前とともに表示されている。居室内部はクローゼットが造りつけとなっている。家族との思い出のスナップ写真や知人からの絵手紙がコルクボードに貼られていたり、位牌、籐椅子、ベッドなどを持ち込まれている居室も見られた。全居室の壁には花のリトグラフの額が飾られており、明るい雰囲気を感じさせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置し、トイレ場所の貼り紙や居室の扉に名前を掲示し、安全や自立した生活ができるよう配慮している。視力障害(白内障)のある方にも安心してトイレが使用できるよう、手すりを赤色にしている。		